

第638回番組審議会報告  
2019年5月14日開催

■出席委員

佐藤卓己委員長 佐藤友美子副委員長（書面） 今井美樹委員 島田智委員  
太平信恵委員 津村記久子委員 東野博昭委員

■毎日放送出席者

梅本専務 木田常務 浜田取締役 宮田取締役  
高山報道局長 澤田報道主幹 和田ディレクター  
高山コンプライアンス室長 菅野番組審議会事務局長

◆議事の概要

1. 委員の交代について

4月例会で退任した砂間裕之委員の後任として、毎日新聞社大阪本社編集局長の島田智氏が委員に就任した。

2. 審議事項

テレビ番組「映像'19 使い捨て異邦人～苦悩する外国人労働者たち～」  
(2019年3月31日(日)深夜0:50～1:50 放送)について意見交換した。

【番組概要】

2018年12月、外国人労働者を増やそうとする改正入管難民法が成立。番組では、岐阜県にある、中国人の甄凱（けんかい）さんが運営している外国人労働者のシェルターの活動取材、外国人技能実習制度のもとでの外国人労働の“影”を浮き彫りにするとともに、拙速に過ぎる政策の問題点と改善策を考える。

【各委員の主な意見は次の通り】

\*外国人技能実習生の置かれた過酷で理不尽な状況をシェルターに逃げ込んだ人たちの状況を追うことでリアルに映し出していた。外国人技能実習制度や改正入管難民法の問題点を、労働者の立場から具体的に示した良い番組だと思う。

\*番組がかなり進んだところで外国人技能実習制度の説明があったが、最初に説明してほしかった。

\*雇用者に搾取され逃げ出してきたカンボジア人の女性たちに次の仕事が決

まり、希望に満ちてシェルターを出ていくというシーンが印象に残った。

\*外国人労働者を違法な条件で働かせる雇用者の実像が見えてこなかった。  
加害側のことをもっと知りたかった。

\*外国人労働者と雇用者の関係がうまくいっている事例にも触れられれば、  
非常に差別的な扱いをされている人の事実がより明確になったと思う。

\*1時間という尺の中で何を入れるべきか、今回の番組は、そのバランスを  
ぎりぎりのところでとっているなという感じがした。1時間という中で、  
国の制度の話も入れ、個別の被害の話も入れ、中央の政治の動きも入れ、  
そこになおかつ「うまくいっている例もある」というのは、入れる必要は  
ないと思う。

\*シェルターを運営している甄凱（けんかい）さんが法的にどういう立場で  
雇用者側と交渉しているのか、詳しい説明が欲しかった。また彼の情熱の  
源が何か知りたかった。

\*シェルターの支援を受け再就職が決まった外国人労働者がいる一方で、問  
題が解決していない人が残っていることを最後に強調して、それだけ問題  
が根深いという終わり方をした方がよかったと思う。

\*視聴者に問題提起をする番組なので、外国人労働者の問題についてはさら  
に掘り下げていていただきたい。

#### 【番組制作者側の説明、質問への回答】

\*1時間という番組枠の中で何を盛り込み何を捨てるのかというのは、いつ  
もつくり手としては迷うところ。制度、国、産業構造の問題などいろい  
ろな側面があるが、普遍性は何かといった時に、ただ1人でも人間の尊厳に  
かかわるものが奪われたり傷つけられたりした事例が目の前にあれば、そ  
れこそが普遍性ではないのかと考え、そこにこだわってみた。

\*番組で「ブローカー」と呼んでいる海外の仲介業者に対し、労働者の送り  
出し国も日本も規制ができていない。システムに問題がある。

\*外国人技能実習制度を利用して何とか生き延びている会社があり、もちろんいい企業もある。この制度のもとで困っている外国人労働者を国が助けずに放っておくということは、ひいては同じ労働者である我々日本人の労働環境にも返ってくるのではないかと思う。

以上